

自治連 たま

■発行 多摩市自治連合会
 ■編集 自治連広報委員
 (事務局) 多摩市役所
 コミュニティ・生活課内
 〒206-8666 多摩市関戸六丁目12番地1
 TEL 042(338)6892 FAX 042(337)7660
<https://www.city.tama.lg.jp/kenkofukushi/katsudo/jichikai/index.html>
 令和6年3月20日



会長挨拶



多摩市自治連合会
会長 田村 清太郎

こんにちは。皆様お元気でお過ごしでしょうか。今年は大変な幕開けとなりました。元日には能登半島地震が発災し、多数の犠牲者が出ており、亡くなられた方々のご冥福をお祈りいたします。今一度ご家庭での防災対策をご確認ください。重要なのは、家具の転倒防止、飲料水、非常用食糧、カセットコンロ、ボンベ、常備薬等の備蓄です。また、1月2日には羽田空港での航空機事故がありましたが、幸いにも日本航空の旅客機の乗員乗客は全員無事に脱出できました。これは奇跡といえると思います。前者は天災ですが、後者は人災だと思えます。なんとか防ぐことはできなかったのでしょうか？さて、ようやく暖かい季節の到来です。多摩市自治連合会は、来年度予算の試案検討の時期です。役員一同一丸となって来年度も地域活動の促進や地域課題への取組に努めて参りますので、ご協力のほどよろしく願いいたします。

学習会

テーマ「多摩市が目指すまちづくり・教育と地域コミュニティとの関わり」

令和6年2月3日(土)に多摩市立永山公民館集会室にて、多摩市自治連合会主催の学習会を、阿部市長と千葉教育長を講師に迎えて開催しました。

田村会長の開会の挨拶に続いて、阿部市長の講演では『元日早々の能登半島地震の影響でしょうか。午前中に行われた防災の集まりには多数の参加があった。』との報告から始まりました。度重なる震度5以上の地震の積み重ねにより甚大な被害を受けた能登半島地震と、13年前の3.11東日本大震災での津波被害を比較して、地震の起き方によって被災状況はかくも異なることが報告されました。

本題の「第6次多摩市総合計画」では10年先を見越して今の環境問題を含めて「どのようなまちづくりを進めるか」ということで、プラスチックごみの削減に向けた取組の動画が上映されました。中学生・高校生の未来に向けた危機感の感じられる内容でした。

次に、たま広報2月5日号に掲載の「多摩センターわくわくプロジェクトVol.2」が紹介され「まちづくり」とは異なる「まちづかい」という考え方が提起されました。また、バス運転手の高齢化が進み、数年先のバス運転手の大幅減の問題についても触れられました。質疑の時間に参加者から永山駅前の日医大付属病院の移転及び存続に関する質問や聖蹟桜ヶ丘駅から市庁舎につなぐロープウェイを建設してはどうかという提案がありました。建設コスト・維持費用の検討が不可欠ですがユニークな提案でした。

10分の休憩を挟んで、千葉教育長の「コミュニティ・スクールを活用した子どもの学びと成長を支える取り組み」について講演が行われ、これまでの知識重視の教育から知識をどう活用するかに向方向転換する必要性が生じていることが強調されました。全国的には30万人を超える「不登校」の問題についても、今、根本的に教育の在り方が問われている、ということが強調されました。



阿部 裕行 多摩市長



千葉 正法
多摩市教育委員会教育長

新年情報交換会

令和6年1月20日(土)に多摩市鶴牧にあるLINK FOREST 1階ホールAにて新年情報交換会を開催し、当日は52名(来賓・役員含む。)に参加いただきました。

正午より開会し、始めに多摩市自治連合会 田村会長の挨拶、続いて当連合会顧問の阿部市長、三階市議会議員、千葉教育委員会教育長より、この度の能登半島地震の御見舞いを兼ねた祝辞を頂きました。

来賓代表のご挨拶では、奈良部多摩稲城防犯協会会長より祝辞をいただき、能登半島地震の現場で発生している窃盗等についてのお話があり、被災地でそうした犯罪が起きていることに驚きを隠せません。

その後、伊野多摩商工会議所会頭による声高らかな乾杯の発声で宴が始まりました。参加者の方々は食事を楽しみながら、他団体との交流を深め、地域活動における課題や取組について和気あいあいと情報交換をされました。

13時過ぎからはお楽しみのビンゴゲームの始まり。参加者はビンゴカードを眺めながら、番号の発表があるごとに「リーチ!」「ビンゴ!」などの声上がり、賑やかな雰囲気となりました。

最後に多摩市自治連合会の菊川副会長より、物理学者の寺田寅彦博士の防災に関連した諺「天災は忘れた頃にやってくる」を引用した挨拶で閉会となりました。

今回の情報交換会に参加された皆様にとって、会の目的とする「会員相互の情報交換と親睦を深めること」が少なからずできましたら、役員一同幸いに思います。

今後につきましても、地域の皆様のご意見を頂戴しながら、各事業を進めていく所存でございますので、引き続きよろしく願いいたします。



阿部市長 三階市議会議員 千葉教育長



歓談、情報交換



ビンゴゲーム



スポレク2023

今年度は、新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行に伴い、開催時間については昼食を挟んでの1日プログラムに戻すことにしました。競技種目は昨年度と同じ5種目ですが、競技時間を20分から30分に増やすことにより、参加者全員がゆっくり競技を楽しめるようにしました。また得点方法も見直し、チームの順位がより反映される様に工夫しました。

昼食後は、恒例のスマイルキッズバトンクラブの皆さんの演技を観て楽しんでいただきました。年々子どもたちの技量が上達しているのが素晴らしいですね。

今回新たに競技終了後、得点の集計時間を利用して参加者にアンケートに回答していただきました(121名中119名が回答)。感想の中では、スポレク全体について9割の方が「とても良い」と「良い」との回答でしたが、個別には競技種目の追加、得点方式の見直し、お弁当の支給、参加団体の増加の工夫、などご意見をいただいております。これらのご意見は次回への参考にさせていただきますと思います。

最後にスポレクの開催に当たり、多摩市スポーツ推進委員協議会の皆様、スタッフの皆様にも多大なるご支援・ご協力を賜り感謝申し上げます。次年度も高齢者から若者までの誰もが楽しめる「スポレク」の開催に努めて参ります。



開催日時	令和5年11月12日(日) 9時30分~13時45分
会場	多摩市立総合体育館
参加者	9団体 15チーム 121名 スマイルキッズバトンクラブ 25名 合計146名
競技種目	5種目(輪投げ、ストラックアウト、ディスクゴルフ、玉入れ、ダーツ)
表彰	総合表彰 ・優勝:馬引沢自治会①(59点) ・準優勝:馬引沢自治会②(57点) ・3位:一ノ宮自治会(54点) ・特別賞:落合自治連合会①(20点) ・ブービー賞:愛宕2丁目住宅管理組合①(24点) 種目賞 ・輪投げ:馬引沢自治会①(40点) ・ダーツ:瓜生自治会(164点) ・ストラックアウト:馬引沢自治会①(15点) ・玉入れ:馬引沢団地自治会(40点) ・ディスクゴルフ:馬引沢自治会①(14点)

視察研修会

開催日	令和5年10月13日(金)
視察先	①小河内ダム ②奥多摩湖 水と緑のふれあい館 ③ニツ塚処分場 ④谷戸沢処分場
参加者	会員11団体18名、役員9名 計27名

小河内ダムは奥多摩湖にあるダムで多摩川上流部を堰き止めて、1957年に完成しました。広大な湖と周囲の豊かな景観を楽しむことができました。

「奥多摩湖 水と緑のふれあい館」は、水と緑と奥多摩を再発見する場所として好評で、人と自然、都市と水源地のより良い関係を考える研修となりました。

ニツ塚処分場・谷戸沢処分場は多摩地域25市1町、約400万人のごみの最終処分場となっています。全量を“エコセメント”にリサイクルし、資源循環を図っています。不燃ごみはリサイクルの進展により、平成30年度から埋め立てがない、ということでした。



合同部会

「コミュニティ活動のIT化と働く世代の関わりについて」

令和5年12月2日(土)午後1時半～多摩市立関戸公民館にて、合同部会を開催しました。今回の合同部会は、令和5年度試行的に実施した自治会・管理組合サロンにおいて情報交換された地域活動の課題について、先進的に取り組まれている団体やITサービスを紹介し、各自治会や管理組合での活動に結び付けていく目的で開催しました。当日、15団体27名が参加されました。

まず地域活動の事例発表では、地域活動に熱心に取り組んでいる「ブリリア多摩センター管理組合」と「Brillia多摩ニュータウン団地管理組合」の2団体よりお話を伺いました。

「ブリリア多摩センター管理組合」では、管理組合での様々なイベントを企画運営されるBCC(ブリリアコミュニティクラブ)の活動について、コロナ禍での取組やITツールの活用に焦点を当てて紹介頂きました。「Brillia多摩ニュータウン団地管理組合」では、理事会での会議資料の電子化やグループウェアの活用などITに対する取組のほか、2023年11月に入居10周年を迎えての記念事業への取組、災害に備えての防災活動について紹介頂きました。

また、「地域活動を支援するITサービスの紹介」では、株式会社ワンベルウッズ森代表取締役が現役自治会役員として活動する中、自治会運営で直面する課題の解決手段として、自らの手で開発し実用化されたコミュニケーショングループウェア(情報共有)アプリ『Yumicom』について紹介頂きました。

参加者のアンケート結果では、いずれのお話しも好評で、IT化の取組について今後も取り上げて頂きたいとの意見がありました。その他、自治会員・役員の高齢化に対する自治会のあり方、災害時の安否確認についての意見もありました。

自治会・管理組合サロン(第3回)

日時:令和5年9月9日(土)午後2時30分～午後4時
場所:多摩市役所 第二庁舎会議室
テーマ:コミュニティづくり(自治会・管理組合のコミュニティ、地域とのかかわりなど)

第3回自治会・管理組合サロンのテーマは「コミュニティ」。コロナ禍や少子高齢化など複合的な問題で住民同士や地域の交流が減っているように感じる昨今、この「コミュニティ」というテーマもこれからの多摩を考える上で重要な課題と言える。過去2回のサロンに比べて参加人数が多く、第1回の高齢化や第2回の防災のテーマに劣らず関心が高いことを表している。各グループの意見を聞いてみると「場所」「仕切る人」「高齢化」の3つの要素が大きいように感じた。コミュニティ形成に「場所」は非常に重要であり、現在はコミュニティセンターという「場所」を中心に活動している自治会がいくつかある一方で、コミュニティセンターが無い地域からは設置の要望もあった。

第1部:テーマに対する意見交換



自治会グループ①



自治会グループ②



管理組合グループ

第2部:参加者同士の座談会



「場所」があったとしてもコミュニティは自然発生的になかなか生まれないのも事実。誰かが率先してコミュニティ作りを「仕切る」必要性もあるように感じた。ある管理組合では副理事長がその役を担うことになっているという。そういった決め事が「仕切る人」を途切れさせないために必要かもしれない。

しかし、これまでコミュニティの中心として活躍した方も高齢化で活動ができなくなって、コミュニティが縮小、消滅というケースもあるだろう。やはり第1回目のサロンテーマでもある「高齢化」に帰結してしまうのが悩ましい。

今後も自治連では「高齢化問題」は勿論のこと、様々な課題について議論する場を作っていきたいと思う。



ブリリア多摩センター管理組合

Brillia多摩ニュータウン団地管理組合



株式会社ワンベルウッズ 森代表取締役



地域のお祭り開催状況に係るアンケート調査結果報告

【アンケート回収結果】

2023年は新型コロナウイルス感染が収束傾向となるにつれ、2～4年ぶりに地域のお祭りを再開する動きが市内各地で見られました。

そこで、自治連として加盟114団体を対象に地域でのお祭り開催状況に関するアンケートを実施しました。

今回アンケート調査票を提出いただいた団体は計81団体。アンケート回収率は71.1%と高く、自治会・管理組合にとって関心が高いテーマであることが伺えます。

<今年のお祭り開催の有無について>

	自治会	管理組合	計
対象数	61	53	114
回収数	38	43	81
回収率	62.3%	81.1%	71.1%

【お祭りの開催状況】

アンケート結果によると、今年お祭りを開催した団体は、回答のあった81団体中40団体と約半数でした。

お祭りを開催した団体のほとんどが、コロナ感染拡大期は中止を余儀なくされました。再開理由で多かったのはコロナ感染の収束と地域交流の活性化、地域住民からの開催希望でした。

一方で、2023年もお祭り開催を見送った団体は21団体あり、まだ完全にコロナ禍以前には戻っていない状況といえます。再開出来ていない理由の一つに役員の高齢化を挙げている団体が多く見られます。

<今年(令和5年1月～12月)のお祭り開催の有無について>

お祭り開催の有無	回答数			割合
	自治会	管理組合	計	
開催した	21	19	40	49.4%
開催しなかった	7	14	21	25.9%
開催したことがない	10	10	20	24.7%
回答計	38	43	81	100.0%

【お祭りの運営主体】

お祭りの運営主体については、実行委員会方式で開催との回答が最も多くその他も含めると半数を超えている。自治会・管理組合主体の開催を上回り各団体で運営について工夫して取り組んでいる様子が伺える。

<お祭りの運営主体について>

運営主体	回答数			割合
	自治会	管理組合	計	
自治会・管理組合	6	9	15	37.5%
実行委員会	9	8	17	42.5%
その他・不明	6	2	8	20.0%
回答計	21	19	40	100.0%

【お祭りの企画内容】

お祭りの企画内容としては、模擬店、盆踊り、和太鼓演奏、音楽演奏、ビンゴ、花火、抽選会等多くの企画が行われています。

今回アンケート調査の結果、各々の地域で開催されるお祭りが住民にとって地域交流の大事な機会として捉えられていることが、改めて浮き彫りになっています。

今後、各団体において2024年度の事業計画を立案検討する際に、是非、参考にしていただければと思います。

～各地域のお祭り あれこれ～ いずれも参加者が多く大好評でした

今回アンケート調査において、各団体のお祭り実施の広報資料の提出協力をいただいた団体の中から、次の5団体のお祭り開催状況をご紹介します。

自治会：桜ヶ丘一丁目自治会、上乞田自治会、永山6丁目自治会

管理組合：エステート貝取-2住宅管理組合、永山ハイツ住宅管理組合

◆8/5(土)：乞田貝取盆踊り大会 上乞田自治会 5つの自治会が持ち回りで実行委員会方式で開催

コロナ感染影響で3年間お祭りを中断し4年ぶりに開催。4年ぶりに行われた盆踊り大会は、予想以上の人出で、熱気あふれるものでした。帰りぎわ、「楽しかったー！来年も来たいね！」と、こどもたちの声が聞こえてきました。

～ふれあいめーる 2023年9月号より

『毎年、第三小学校の生徒による正調ソーラン、東愛宕中学校の生徒による南中ソーランを開催しています。小学校を卒業した生徒は中学校で南中ソーランを、中学校を卒業した生徒は、輪の外で友達と懐かしく見学しています。子供達が育てている乞田貝取盆踊り大会はずっと続いてゆきます。』～アンケートコメントより



◆8/19-20(土-日)：永山ハイツ夏祭り 永山ハイツ住宅管理組合 実行委員会方式で開催

コロナ禍により2020年から2022年まで恒例の夏祭りを休止せざるを得ない状況でしたが、4年ぶりに開催。今年の夏祭りのテーマは、「生きる力～祭りを通して今を語り継ぎ、知恵を集めて新しきことを生み出す～」。

今回の夏祭り開催に当たっては「お祭り開催ノウハウの継承」という目的もあったようです。たくさんの屋台が軒を連ね、実演販売、ライブ演奏、「鼓魂」の和太鼓演奏、大人神輿、子供神輿、盆踊りなどの催しが行われました。約400人もの方々が参加し、久しぶりの開催は大盛況でした。



『4年ぶりの開催となったことで細かい手順を忘れており、戸惑う場面が多々見受けられた。また、実行委員も高齢化が進み、櫓の建設、解体に苦勞した。今後、いかに若者を参画させるかが課題。』～アンケートコメントより

◆8/25-26(金-土)：夏祭り 桜ヶ丘一丁目自治会 ゆう桜ヶ丘が主催、桜ヶ丘一丁目自治会他4自治会が共催



4年ぶりの開催となった夏祭りは、予想以上に多くの方々にご来場いただいた。盆踊り、模擬店、和太鼓演奏、音楽演奏、ビンゴゲーム等の企画の他、恒例の子供神輿は80人を超える参加があり、元気な掛け声とともに子供達の楽しい夏の思い出として心に刻まれた。桜ヶ丘一丁目自治会が担当した焼きそばは準備した350食すべて完売。

『演奏、ダンス、ショーなどの各種イベントも盛大かつ有意義に幕を閉じることができ、これもひとえに桜ヶ丘地域の皆様の多大なるご支援、ご協力の賜物と心より感謝とお礼。来年も本年同様、変わらぬご理解とご協力を。』
～桜ヶ丘一丁目自治会回覧9月20日号より

◆10/14(土)：秋祭り エステート貝取-2住宅管理組合 実行委員会方式で開催

約300世帯が暮らすエステート貝取-2では、3年ぶりに秋祭りを開催。焼き鳥、焼きそばをはじめとし、お菓子釣り、くじ引き、子供コーナー、「動物探し」など趣向を凝らした模擬店が揃い、キッチンカー、ドミノピザも出店。イベントも盛りだくさんで、青陵中吹奏楽部と和太鼓部の演奏には立ち見も出るほどの大盛況。実行委員に加えて緑化クラブ、リトルファミリークラブ、ジャパンワイルドライフセンター、多摩市若者会議の皆様他の地域関係団体が協力。



『3年休んでいたのでも、お祭りを知らない幼児などがおり、とても楽しんでもらえました。顔が見えるイベントはたくさんやって、つながりを深めておけば防災にもつながるので続けて行きたいが、準備も片付けも大変なので年1回の大きなイベント、数回は小さくやるのがいい。』～アンケートコメントより

◆10/28(土)：秋祭り 永山6丁目自治会 今年度から実行委員会方式で開催



昨年度、夏の盆踊り大会を秋祭りに変更して2年ぶりに開催。今年度も秋祭りとして子どもスポーツ大会をメインにミニ盆踊り、花笠音頭、多摩太鼓和太鼓演奏、永山高校吹奏楽部演奏、多摩スイングジャズオーケストラ演奏、ビンゴ大会等のイベント企画が大好評。模擬店も焼き鳥、焼き芋、綿菓子、焼きそば、フランクフルト、飲み物、スーパーボールと充実。手作り感満載。自治会、自主防災会、長寿会、子ども会、ミモザ会(婦人会)の地域の関係団体の他、コラボたまワークセンターつくしも参画し、お祭り準備と運営、後片付けに協力。

『地域交流の場としてお祭りの企画開催はとても有効で、子供からお年寄りまで地域住民が集まり、交流するきっかけともなる。自治会役員の負担、運営する委員の高齢化等、課題はあるものの地域の状況に合わせて、持続可能な形での「お祭り」を模索しながら必要な改善、修正を加えて続けて行きたい。』
～アンケートコメントより

令和5年度総合防災訓練に参加して 永山小・多摩永山中防災情報連絡会

「令和5年」は、1923年(大正12年)9月1日11時58分28秒に起きた関東大震災から数えて100年目の節目の年にあたります。なんの変哲もない昼前時におそった大地震は10万5千人もの犠牲者を出しました。物理学者の寺田寅彦博士の警句に「天災は忘れた頃にやってくる」があります。

令和5年9月2日(土)に多摩市総合防災訓練が市内の聖ヶ丘地区・永山地区・諏訪地区の3地区で実施され、そのうちの永山地区では、他の避難所と異なり永山小学校と多摩永山中学校の2か所に避難場所が分かれています。

私ども永山小・多摩永山中防災情報連絡会は、毎年11月に永山小学校において、防災授業と一緒に概ね基本訓練中心に訓練を重ねてきました。今回は初めての避難所開設と避難所運営の訓練であり、まさにタイムリーな内容でした。

同防災情報連絡会は、避難所運営を中心とした訓練は初参加で、手探りの状況下でしたが、防災安全課職員から「災害はいきなり起きるので対応が完璧でなくてもよい」とのアドバイスがあり、

やや緊張感がほぐれた気がしました。

避難所開設運営訓練では、感染症対策として発熱・体調不良者を専用区域に案内する人を特定するため、事前受付を設置しました。総合受付やペットスペース、体調不良者・要配慮者のスペースの確保など、避難所レイアウトを見よう見まねで設営する訓練でした。

今後は毎年実施となりますが、「いざ大災害時」を想定して今後は緊張感をもってスピーディな運営訓練にしたいと思います。

地震の専門家によりますと、首都直下型地震や南海トラフ地震については「すでにいつ起きてもおかしくない」と言っています。突然の災害は待ってくれません。そして、災害時には訓練ではサポートしてくれる、「消防署・市防災安全課・消防団」はすぐには来てくれません。被災された地域の人々で避難所を運営しなければならない事を自ら肝に銘じて減災に努めたいと思う訓練でした。

<記：永山小・多摩永山中防災情報連絡会 相談役 下野 陽一>

令和6年度 定期総会のご案内

定期総会	懇親会
開催日：令和6年6月2日(日)	開催日：令和6年6月2日(日)
会場：パルテノン多摩 会議室1	会場：パルテノン多摩 会議室3・4
時間：13時～14時45分	時間：15時～16時

* 詳細については、団体代表者様宛に後日お知らせいたします。

多摩市自治連合会に加入しませんか？

多摩市自治連合会は、市に設立の届出をされている自治会・管理組合のうち、114団体が加入しています。令和5年度は、新たな試みとして、地域活動における困りごとや相談事について意見を交わし、各自治会・管理組合の横のつながりを深めるために自治会・管理組合サロンを試行的に実施しました。

7月～9月に実施したサロンでは、各団体が抱える課題として、「地域活動において若手との関わりが希薄している」「コミュニティ活動のIT化が難しい」などのご意見をいただきました。

そこで12月に実施した合同部会では「コミュニティ活動のIT化と働く世代の関わりについて」をテーマに、先進的な取組をされている団体やITサービスを紹介させていただきました。今後も各団体の活動に少しでも役立てるような取組を検討して参ります。

是非、多摩市自治連合会へのご加入をご検討いただき、地域活動の促進や地域課題への取組など様々な問題に、共に取り組んで参りましょう！

長かったコロナ禍もようやく一段落し、平時の賑わいを取り戻してきた2023年。長い間休止していた催事も各所で復活をみせていたことを受けての「お祭り特集」でしたが、いかがでしたでしょうか？執筆にあたりながら、コロナの苦難に立ち向かうのも、お祭りを開催するのも、防災や防犯も地域の協力、つながりが重要だということを改めて認識した次第です。

より良いコミュニティ作りの一助になるような企画を自治連たまで掲載していきたいと考えておりますので、引き続きご協力のほど、よろしく願いいたします。(広報委員 横山・大柴)